

平成 26 年度 錦田小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

6月5日(木)に開催された「錦田小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、錦田小校区では、【防災訓練】【子どもの健全育成】【地域の連携】の3つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)



皆さん、ご参加ありがとうございました。

【当日参加団体一覧】

団体名		
小山中島自治会	環境美化推進委員会	錦田小学校 P T A
小山自治会	体育振興会	錦田中学校
谷田自治会	民生委員・児童委員	錦田中学校 P T A
御門自治会	錦田保育園	学校支援地域本部
竹倉自治会	恵明保育園	地域包括支援センター
押切町内会	桜ヶ丘桜寿会	地域づくりコ-ディネーター
谷田城の内自治会	御門御晴会	小山子ども会
東富士見自治会	消防団第6分団	柳郷地子ども会
緑ヶ丘自治会	錦田幼稚園	東富士見子ども会
小山台自治会	錦田幼稚園 P T A	御門子ども会
柳郷地自治会	私立桜ヶ丘幼稚園	桜ヶ丘子ども会
錦田地区自治会連合会	錦田小学校	

※当日参加者 44 名

アンケート：分野ごと最も話し合いたいテーマについて、参加者の希望を伺いました。



【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①要援護者をどのように助けるか? 15 名 ②各自治会の防災体制を強化していこう! 17 名 ③その他 1 名
子どもの健全育成	①地域全体であいさつする地区をめざそう! 17 人 ②登下校時の見守りを強化するには? 16 人 ③子ども会のサポートについて地域で考えよう! 5 人
地域の連携	①各団体の連携について考えよう! 22 人 ②高齢者のコミュニケーションの機会を増やそう! 13 人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。(○:参加者発言 ●:市長発言)

【防災訓練】

今まで	これから
テーマ① 要援護者をどのように助けるか？	
<p>《要援護者の把握方法について》</p> <p>○昨年 12 月に民生委員の改選があったが、錦田地区で民生委員を出していない町内が 2 町内ある。他地区の民生委員が要援護者を調査している状況。</p> <p>○緑ヶ丘自治会では、昨年 10 月に自治会で調査して世帯台帳を作成した。一昨年から準備していて、昨年内規で決め、必ず世帯台帳を提出するようにしたところ、全員提出してくれた。</p> <p>●現在は個人情報保護などで、世帯台帳の作成はたいへん難しくなっている。全世帯、世帯台帳ができたのはすばらしいこと。</p>	<p>○どう救助するか以前に、民生委員の選出や要援護者リスト作成をしっかりと確保しないと困る。市からプレッシャーをかけてほしい。</p> <p>○まず町内の要援護者の情報をきちんと把握する必要がある。日常的に民生委員の成り手がいない町内は、どういったリスクがあるのか地域の中で共有して、早急に体制を整える必要がある。</p> <p>○要支援者はかかりつけの病院や血液型なども、世帯台帳に記入してくれている。今後はその方たちを後押ししていく。</p> <p>○自治会が音頭をとって世帯台帳を作成するのは有効な手段。前回のトークで世帯台帳(案)をここで配布したが、取組みを進めるにはそういった基礎資料が参考になると思う。</p> <p>●町内の世帯台帳作成は、大災害時の安否確認に非常に大事。ぜひ各町内で取組んでほしい。</p>
<p>《要援護者の救助方法について》</p>	<p>●要援護者リストを基に町内でサポート方法を考え、計画を作成してほしい。</p> <p>○災害時は要援護者リストを活用し、要援護者の救助・救出を行う。</p> <p>○理学療法士や介護福祉士に専門的なアドバイスを受けて、要援護者の搬送方法を皆が学んでいくべきではないか。</p> <p>○救助後の搬送先の情報収集や連携について、話を詰めていく必要があるのではないか。例えば介護福祉施設や三島総合病院等と連携し、収容可能人数などを確認する。</p> <p>○町内に福祉施設のある自治会は、一緒に訓練を行なう方がいいと思う。訓練日程を事前に知らせて、交流しながら具体的な搬送方法を学んでいってはどうか。</p>
テーマ② 各自治会の防災体制を強化していこう！	
<p>○各町内会で抱えている課題は微妙に異なる。</p>	<p>○まず各町内会単位で話を詰めていく。それを連携していくやり方がいい。</p>

今まで	これから
<p>○錦田地区は小学校区単位より、中学校区単位の方がつながりが深いと思う。</p> <p>○緑ヶ丘自治会では内規を作り、実行部員を決めている。また、世帯台帳に基づき小学校以下の子どもと救助を必要としている高齢者を被補助部員とし、それ以外は補助部員として役割を決めている。</p> <p>○緑ヶ丘自治会では組長の会合で、「要支援者は各組で対応し、それができなかつたら両隣や役員で対応する。その後全体へ持ってくる」ことを伝えている。</p> <p>○錦が丘の場合、自治会は錦田地区、小学校は向山地区、民生委員は錦田地区に属する。錦田地区でやることはどっちつかずになりかねない。</p> <p>●要援護者リストを自治会長に渡す時に、要援護者へ配布する笛と一緒に渡している。</p> <p>●「黄色いハンカチ作戦」は災害時、自分の家は大丈夫だったという印。安否確認が容易になる。</p>	<p>○中学校区単位で活動する方が良いのではないかな。</p> <p>○これから自治会に入っていないアパート 3 棟（約 30 軒）と話し合いをする。</p> <p>○防災に関しても錦田地区連合会（錦田小）に入るのか、中郷地区連合会（向山小）に入るのか、災害が起きた時、実際の場面でどうなるのかしっかり地域で考えていくべきだと思う。</p> <p>●笛の音を皆さんが知らないと、何の音かわからない。ぜひ防災訓練時に笛を吹いて、要救助の笛の音を町内で共通認識してほしい。</p> <p>●防災訓練に参加できない方が、黄色いハンカチを掲示することで、訓練に参加している意思を示すと同時に、安否確認の訓練にもなる。</p>
<p>テーマ③ その他</p>	
<p>○錦田地区は自治会数が多く、平坦地から山間地と地形もさまざま。異常降雨による水害や地震災害等で、孤立する地域が出てくる可能性がある。</p> <p>●錦田小・錦田中に避難所があり、避難所運営委員会ができています。災害時、各町内の問題は町内で解決し、避難所をサポートする方は別について、自主防災と連絡をとってやっていく仕組みになっている。避難所は家が倒壊や延焼により使用できなくなった方だけが避難する場所。</p> <p>○錦田地区は、避難所運営委員会という組織はできているが、各家庭に避難所運営マニュアルが行き届いていない。</p>	<p>○各町内で、町内の近くにある市の施設に避難するなど、避難先を考える必要がある。</p> <p>○地形の特性を踏まえた防災、総合的な体制作りが求められている。</p> <p>●避難所運営のトレーニングも進めていく。</p> <p>○避難所運営をするにあたり、個々の家庭が安全に避難できるように、人的配置も含めて検討していく必要がある。</p>

【子どもの健全育成】

今まで	これから
テーマ① 地域全体であいさつする地区をめざそう！	
<p>○小学校でも色々なあいさつ運動を実施しているが、地域の方から「あいさつできていない。学校では何をしているのか」という声をいただく。学校でも努力しているが、どうしたらいいのかと思う。</p> <p>○先日、中学校に出かけた時、昔はあいさつがなかったが、半数くらいがあいさつしていたので昔よりだいぶよくなっていると思う。</p> <p>○御門では、子どもは以前よりしっかりあいさつしてくれるようになってきている。</p> <p>○登下校時は子ども会の父兄や交通整理などであいさつしているが、ふだん地域内で子どもたちが遊んでいる時にあいさつがない。</p>	<p>●大人があいさつしないと子どもはあいさつしない。「いかのおすし」という標語があり、子どもたちは不審者についていけないよう警察から指導されていることも念頭に置いてほしい。</p> <p>○あいさつは家庭から。家庭であいさつをしっかりしていることが大事。家庭から学校、地域でのあいさつ運動になると思う。まずは家庭で、あいさつの意識を持つようにするといいい。</p> <p>○一つにまとまった地域として、あいさつができるといいい。</p>
テーマ② 登下校時の見守りを強化するには？	
<p>○登下校時に立っている人が、毎回同じというのは問題。見守る人をどう増やしていくのか？</p> <p>○錦田小も向山小も、通学路を通る車のスピードが速く危険。</p> <p>○伊豆縦貫道ができてから、谷田の遺伝坂の坂下から1号線に向かって、朝の自動車数が非常に多くなり、スピードも速い。谷田の交番前の横断歩道を小学生が多く渡っているが、車道も狭い上に歩道も1人ずつ縦に歩かないといけない状況で、非常に危険。</p> <p>○錦が丘、東台場、パサディナの子どもたちが向山小学校へ通っている。朝の集団登校はいいが、下校時少人数で帰ってくる。向山古墳や学校の裏門を出て錦が丘に曲がるT地路、それから東台場まで約2キロ近くは、住宅がほとんどない。緊急時にブザーを鳴らしても周囲に誰もいない。</p> <p>○下校時間に散歩がてら、子どもの安全確認をしている。毎日同じようにできればいいが難しい。不審者情報も入ってくるので、下校時間に問題が発生しないか気をつけなければいけない。</p>	<p>●各町内でボランティアでやって下さる方を発掘してほしい。</p> <p>○最近少しずつ歩道が整備されてきているが、やはり見守り隊などの力が必要。</p> <p>○解決法としては、子どもたちの見守りの人数を増やすか、あるいは時間帯を決めて自動車の速度を30キロ以下など速度制限をしてはどうか。行政や警察署とも関係してくるので、相談しながら解決していく必要がある。</p> <p>○下校時が魔の時間。時間を問わず、ウォーキングしている団塊の世代以上の方が多くいる。毎日3時に子どもたちの下校を見守る放送があるが、その時に例えば「時間のある方は今からウォーキングしませんか？わたしたちとあいさつしましょう」など、子どもの声で放送を流すと、あいさつ促進になるし、防犯にもなるのではないか。広報の原稿を少し変更してもらって、子どもの声で話したらどうかと思う。</p> <p>○市からもらえるあいさつ運動用のバッジを、防犯パトロール中に、散歩をされている方に配っている。今は腕章を作ることを考えている。</p>
テーマ③ 子ども会のサポートについて地域で考えよう！	
<p>○柳郷地子ども会は、現状、子ども会会員は10人を切ってしまい、自然消滅するのは時間の問題。何か助けて頂けるのなら、お願いしたい。</p> <p>●共働きの家庭や少年団に入っていることなどで、子ども会に入らない家庭が非常に多くなっている。三島市内の小学生は6,000人強いるが、子</p>	<p>○子ども会のサポートについて、ぜひ地域の中で具体的に何ができるか、考えてみてほしい。</p> <p>●子ども会がなくなってしまった町内では、自治会が健全育成会を作り、子ども会活動と同じようなことを実施している。ぜひ地域で子ども会</p>

今まで	これから
<p>ども会に加入しているのは2,000人ほど。</p> <p>○他地域の子ども会がどんどん減り、今まで参加していた行事も他地域が参加しないために、うちだけでは参加できなくなってしまっている。</p> <p>○それぞれ事情があるので、子ども会入会を強制はできない。</p> <p>○最近、中学生が防災訓練に参加してくれている。中学生は防災に非常に大きな力になると思う。他地域では中学生が祭りを手伝っている。</p> <p>●押切町内会などは中学生が張り切ってお祭りの手伝いに参加している。そういった取組みが子どもの健全育成につながってくる。</p>	<p>をサポートしていただきたい。</p> <p>●老人会が子ども会と一緒に活動し、高齢者と子どものつながりを深めている地域もある。ぜひ老人会も子ども会のサポートをしてほしい。</p> <p>○地域で大人も含めて子どもたちと顔見知りになっておかないと、いざという時に防災の力につながっていかないと思う。</p> <p>○防災に限らず、中学生の力をもっと活用していくといいのではないかと思う。</p> <p>●地域の防災訓練を12月初めの「地域防災の日」を中心に行なっている地域は、比較的中学生の参加が多い。</p>

【地域の連携】

今まで	これから
<p>テーマ① 各団体の連携について考えよう！</p>	
<p>○15年ほど前に体育振興会の副会長になったが、その頃に比べつながりが希薄。「誰かがやってくれる、自分はやりたくない」というところから始まっている。非常にやりにくい。現在、体育振興会は自治会連合会の下部組織という形で動いているが、以前は自主的な運営をしていた。どこかの時点で人任せになったのだと思う。</p> <p>○65歳以上が増え、昔と人員構成が変わったため、団体間の連携がものすごく難しくなっている。昔はできたことが、今は同じ様にはできない。</p>	<p>○自治会も体育振興会、民生委員などと連携していかないと、自治会活動や自主防災会活動もなかなかうまくいかないのではないかと思う。各団体と顔を合わせる機会や場が必要だと思う。</p> <p>●夏目木町内会は、町内会役員会の時に民生委員、保健委員、体育委員、子ども会が参加し、行事の打ち合わせをしている。ぜひ参考にさせていただきたい。</p> <p>○各団体との連携をどうするかは、人員構成をよく考えないといけない。</p> <p>○防災等は別だが、これからは個人の趣味で集まった団体などと連携するようになっていくのではないか。</p>
<p>テーマ② 高齢者のコミュニケーションの機会を増やそう！</p>	
<p>○御門御晴会は現在、女性部のような組織。一年を通してコミュニケーションは大変良い。ビンゴ大会、手芸大会、錦田幼稚園の園児と交流会などを実施。一番の悩みは男性の後継者がいないこと。やはり上に立つ人は男性がいいと思う。</p> <p>○核家族化が進み、老人夫婦二人暮らしの方が町内に増えている。核家族化を少しでも減らすために、三島市として、2世帯同居の家庭には固定資産税や市・県民税を減額するなどの対策が必要ではないか。</p>	<p>○男性に元気になってほしい。</p> <p>●税金の減額がすぐにできればそれが望ましいが、現実には学校を卒業しても市内で働くところがないため、都会に働きに出てしまっている。だから少子高齢化が進む。市では何より働き場の確保を優先している。企業誘致や、内陸フロンティアの取組みとして工業団地を作ることなどに取組んでいる。ご理解をいただきたい。</p>

今後の活動の参考にしてください！